

第1回千葉県総合計画策定懇談会の開催結果概要

- 1 日 時 令和7年5月26日（月）午後3時30分～午後5時20分
- 2 場 所 TKPガーデンシティ千葉 4階 コンチェルトA
- 3 出席者（来場）入江委員、垣内委員、坂本委員、谷藤委員、永富委員、花島委員、平山委員、
前田栄治委員、前田伸委員、山本委員
（オンライン）矢萩委員、渡辺委員
- 4 座長の選出 委員の互選により選任
座 長 前田栄治委員
副座長 矢萩委員
- 5 議事の概要 新「千葉県総合計画」素案について

（座 長）

まず初めに、本日の議題となっています、新「千葉県総合計画」素案について、事務局から説明をお願いいたします。

（政策企画課長）

政策企画課長の明珍でございます。よろしくお願いいたします。

初めに、計画策定にあたっての全般的な事項について御説明します。資料1「総合計画及び策定懇談会について」を御覧ください。

まず、「1 計画の性格」でございますが、本県の政策や施策の基本的な方向を、総合的、体系的に定めた、「県政全般に関する最上位の基本的かつ総合的な計画」となります。

続いて、「2 計画策定の体制」について、2枚目の別紙を御覧ください。右側に記載してございますが、今回、委員に御就任いただいた「千葉県総合計画 策定懇談会」において、専門的、総合的立場から計画の重要事項について、御意見をいただければと存じます。

また、資料の一番下に記載しておりますように、総合計画は、条例に基づき、議会の議決を経る必要があります。

資料の1枚目にお戻りいただき、「4 策定のスケジュール」ですが、本日、第1回懇談会での委員の皆様からの御意見や、5月21日から約1か月間かけて「パブリックコメント」を実施し、県民の皆様からの御意見を募集します。

各方面からの御意見を踏まえて修正を行い、7月中旬頃に「計画原案」を公表いたします。その後、2回目の策定懇談会を開催し、さらに御意見をいただいた上で「計画案」として公表し、9月議会への提案を目指してまいります。

続きまして、新「千葉県総合計画」素案について、御説明させていただきます。

お手元に配付の「資料3」の冊子が、素案の全文となりますが、非常にボリュームがありますので、A3版・横長の、資料2「計画素案の概要」により、御説明いたします。

新たな総合計画の策定に当たっては、熊谷知事が先の選挙において示された「県政ビジョン2025」の様々な政策を、県の施策として具体化するとともに、前回の計画をベースとしつつ、策定した令和3年度以降の「社会・経済環境の変化」などを踏まえ、アップデートを図るものとしています。

資料の一番上、青色で囲んだ箇所を御覧ください。「第1編 計画策定の基本的な考え方」では、「策定趣旨」などをお示ししています。

趣旨として、災害や人口減少社会など、喫緊の課題に対応し、「県民の命と暮らし」を守るとともに、「空」「海」など、県の魅力を磨き上げ、誰もが社会に参加・活躍し、「豊かなライフスタイル」を実現できる県づくりを、加速させることとしています。

また、「計画の期間」について、概ね10年後を見据えた課題意識や、千葉県が目指す姿を示す「基本構想編」と、令和7年度から令和10年度までの4年間で、重点的に実施する施策や取組を示す「実施計画編」による2部構成となっています。

次に、資料の左側、茶色で囲まれた箇所となりますが、「第2編 基本構想編」について御説明いたします。

「第1章 千葉の新たな飛躍に向けた6つのチャレンジ」では、状況や課題が変化する中で、直面するピンチをチャンスに転換し、「県民の命と暮らし」を守るとともに、更なる飛躍に向け、様々な力を結集し、より大きな成果に結びつけていくとの考えのもと、取り組むべき課題を整理いたしました。

具体的には、1つ目に「大規模災害等に備えた危機管理体制の強化と新たな犯罪形態への対応」として、これまでの災害経験を生かした市町村や事業者等との連携強化や、孤立集落対策などによる「災害に強い千葉県づくり」、また、新興感染症の拡大に備えた対応力の強化や、匿名・流動型犯罪グループへの対応など

2つ目に「本格的な人口減少社会への対応」として、急激な人口減少を緩やかにし、県の活力を維持・向上させるため、「若者の出会い、結婚、妊娠・出産、子育て等の希望をかなえる環境づくり」、「移住・二地域居住の促進」、「地域公共交通の維持・確保」、また、持続可能な地域経済に向けた「中小企業の支援・スタートアップの育成」や、「様々な分野での人材確保対策」など

3つ目に「成田空港の拡張事業等に伴う波及効果の最大化」として、本県の拠点性がさらに高まることを踏まえた「新たな産業用地の確保や企業誘致」、「国際的な産業拠点の形成」を図り、「観光客の広域周遊の促進」や「道路ネットワークの充実強化」など、県全体への効果の波及について、記載しています。

4つ目に「超高齢化時代における医療・福祉・介護ニーズへの対応」として、「健康寿命の延伸」、「医療・福祉・介護サービスの提供体制の整備」や「人材の確保・育成と生産性の向上」、また、「伴走型福祉の充実」など

5つ目に「多様性を活力とし、誰もが活躍できる社会づくり」として、県政のあらゆる分野での「多様性尊重を踏まえた施策の推進」や、「全ての県民が、その人らしく活躍することのできる環境づくり」、増加する「外国人の活躍促進」と「多文化共生社会の実現」など

6つ目に「自然・文化を生かした魅力の発信と人の流れの創出」として、「様々な魅力の磨き上げと戦略的な発信」、「本県の特徴や歴史を生かした文化・スポーツ振興」、「カーボンニュートラルの実現」、「豊かな自然環境の保全・継承」など

以上、6つの項目として整理しました。この部分が、前回の計画から一番大きく変更した、計画の「コンセプト」となる箇所です。

次に、「第2章 千葉県が目指す姿」では、「基本理念」として、『千葉の未来を共に創る「県民を守り、支え、そして飛躍する千葉の実現」』を掲げました。

県民の命と暮らしを「守り」、全世代に目配りした支援により県民誰もが豊かなライフスタイル

を実現できるよう「支え」、そして、成田空港を核とした国際産業拠点の形成など、雇用や経済の「更なる飛躍」を目指し、県民の皆様とともに、新しい千葉の未来を創っていくこととしています。

この基本理念の実現に向け、「基本目標」として、「危機管理」「産業・社会資本」「医療・福祉」「こども・若者」「共生」「自然・文化」の6分野を設けました。

その下にございます、緑色で囲まれた「県づくりの方向性」については、資料2枚目の「別紙1」にまとめてございますので、御覧ください。

千葉県には、東京と隣接する地域、工業地帯を形成する地域、豊かな自然を有する地域など、各地域において、特性や強みを生かした産業が成長しています。

今後、成田空港の拡張事業等や、圏央道をはじめとする道路ネットワークの充実などを通じて、「人・モノ・財」の流れを一層大きくし、県全体の活性化につなげていく必要があります。

このため、各地域が持つ特性を把握した上で、大きなくくりとして「6つのゾーン」を設定し、それぞれの特性や強みを踏まえ、地域の活性化に向けた「取組の方向性」を示しております。

具体的には、資料の右側に概要としてまとめています。

「東葛・湾岸ゾーン」では、「産業と都市機能の充実を図り、都市間競争における優位性向上を図る」とし、例えば4つ目に記載の「人・モノの流れのボトルネックとなる交通渋滞を解消するため、北千葉道路の整備促進、アクセス道路を含め国道道全体の円滑化に向けた道路整備の加速など「ゾーンの方向性」を示しています。

「印旛ゾーン」では、「成田空港の拡張事業等を生かし、国際的な産業拠点の形成など、地域の発展を図る」ため、「人・モノ・財」の流れを取り込み、産業の受け皿づくりや雇用の創出、外国人観光客も意識した誘客など

「香取・東総ゾーン」では、「農林水産業の産地機能の強化、空港や北関東方面のつながりを生かし、多様な産業展開を図る」ため、成田市場を活用した販路拡大、インターチェンジ周辺の産業の受け皿づくりの促進、発酵文化や街並みなどを生かした観光振興、移住・二地域居住の促進など

「九十九里ゾーン」では、「圏央道の整備効果を取り込み、各産業の連携や「九十九里」のブランド化を進め、地域振興を図る」ため、産業の受け皿づくりや、移住・二地域居住の促進、農林水産業や観光業など各種産業の連携など

「南房総・外房ゾーン」では、「自然環境やライフスタイルの魅力を発信し、観光や移住・二地域居住の促進により、地域振興を図る」ため、孤立集落対策の強化、外国人観光客も意識した誘客、有害鳥獣の地域資源としての活用など

「内房ゾーン」では、「道路網を介した他地域との交流を生かし、幅広い産業を活用した地域振興を図る」ため、アクアライン着岸地における雇用・居住の場としての役割や、カーボンニュートラルの実現に向けた事業環境の向上、海ほたるや大型商業施設、自然を生かした観光施設など多彩な魅力の発信など

それぞれのゾーンにおける「取組の方向性」を、お示ししています。

続きまして、1枚目の概要に戻っていただき、資料右側、濃い青色で囲まれた箇所となります。

「第3編 実施計画編」について、御説明いたします。

「第1章 重点的な施策・取組」では、基本構想を踏まえ、6つの基本目標ごとに、今後4年間で重点的に取り組む施策・取組を体系的に整理しています。

基本目標Ⅰ「危機管理体制の構築と 安全の確保」では、

- ・令和6年能登半島地震の教訓を踏まえ、「半島性を踏まえた防災対策」や、「防災DXの推進」
 - ・SNSを悪用した詐欺や、「匿名・流動型犯罪グループ」による強盗などが増加する中、県民が安心して暮らせる地域づくりを進めるため、「地域防犯力の向上」
 - ・また、依然として後を絶たない飲酒運転の状況を踏まえ、「飲酒運転の根絶」
- などを「主な取組」として、新たに位置付けています。

基本目標Ⅱ「千葉経済圏の確立と 社会資本の整備」では、東京に隣接する地理的優位性や豊かな自然環境、バランスの良い産業構造などを生かした、千葉県ならではの自立性の高い経済圏の確立に向け、成田空港の拡張事業など、より一層高まるポテンシャルを生かしていくため、

- ・施策の項目に、「新たな産業・地域づくりと企業誘致の推進」を新設したほか、
- ・生産性の向上や事業の高付加価値化に向けた「中小企業等のDXの推進」
- ・さらに「稼げる農林水産業の推進」に向けた、「農林水産業の多様な担い手の確保」や「持続可能な畜産業の実現」

- ・資料の「概要」に記載した内容のほかにも、「観光立県の推進」として、「観光人材の確保・育成・定着」や、「デジタル技術を活用した観光振興」
- などを「主な取組」として、新たに位置付けています。

基本目標Ⅲ「超高齢化時代に対応した医療・福祉の充実」では、

- ・医療・介護需要の更なる高まりに対応するため、「医療分野のデジタル化の推進」や「介護現場の生産性向上の推進」
 - ・その他にも、高齢者が健康で生き生きと、自立して暮らしていくことができるよう、「高齢者の健康寿命の延伸」
- などを「主な取組」として、新たに位置付けています。

基本目標Ⅳ「こども・若者の可能性を広げる千葉の確立」では、

いわゆる子育て支援に加え、これまでより少し長いスパンで若者を支援することとし、

- ・「若者の出会いや仲間づくりの支援」
 - ・「ライフデザインの構築と 結婚の希望をかなえるための支援」の
- ほか、「教育DXの推進」

などを「主な取組」として、新たに位置付けています。

基本目標Ⅴ「誰もがその人らしく生きる・分かり合える共生社会の実現」では、

- ・多様性を尊重することが、社会の活力や創造性の向上に 相乗的に効果を発揮する、との認識のもと 制定された「多様性尊重条例」の理念を踏まえ、「ダイバーシティの普及・啓発」や、「性的マイノリティの生きづらさの解消」

- ・今後さらに増加が見込まれる「外国人の活躍支援」や、誰一人取り残さない伴走型の福祉を実現するため「地域で支える自立支援体制の整備」

などを「主な取組」として、新たに位置付けています。

基本目標Ⅵ「独自の自然・文化を生かした 魅力ある千葉の創造」では、

- ・2050年カーボンニュートラルの実現に向け、「脱炭素型ライフスタイルへの転換」や
- ・生産量日本一の醤油やみりんなどを有する「発酵県ちば」の魅力をPRし、誘客促進や県産品の販路拡大につなげるため、「多様な発酵文化・産業を通じた魅力発信」
- ・本県ならではの自然環境を生かし、サーフィンやサイクリングをはじめとする スポーツを核と

した地域の活性化を目指し、「スポーツによる地域づくりの推進」などを「主な取組」として、新たに位置付けています。

基本目標ごとの「施策項目」や「主な取組」については、資料の3枚目にある「別紙2」で、一覧に整理しています。

続きまして、1枚目の資料に戻っていただき、右下の「第2章 行政経営の基本的視点」については、県行政を「経営する」という観点から、計画の推進に当たり、踏まえるべき「5つの視点」を掲げました。

具体的には、

- ・徹底した現場主義による「市町村との連携強化」
- ・開かれたコミュニケーションによる「県民や民間等との協働・共創」
- ・県民サービスの向上や 効率的な行政の実現に資する「DXの推進」
- ・機能的で弾力性のある組織運用など「時代の変化に対応した行政組織への変革」
- ・施策や取組の着実な推進が、SDGsが目指す 社会の実現につながる「SDGsの推進」

の5つとなります。

最後に、「第3章 実施計画の政策評価」については、本計画の基本目標を着実に実現していくため、エビデンスに基づく 政策立案を行う「EBPM」の手法を踏まえた 分析・検証と、「PDCAサイクル」に基づく、施策の改善・着実な実行を 行うこととしています。

また、分析・検証に当たって 必要となる数値目標については、現在、検討を進めているところであり、次回の懇談会でお示ししたいと考えています。

事務局からの説明は以上です。委員の皆様におかれましては、忌憚のない御意見をいただければと存じます。どうぞよろしくお願いいたします。

(座 長)

どうもありがとうございました。

1点だけ質問させていただいてもよろしいですか。今ご説明の中、資料2の1枚目で、左側基本構想編の第1章、6つのチャレンジということでここが前回から大きく変化したところだった、こういうコメントがありました。右側の実施計画編では新設のものがいろいろ書かれているんですけども、この左側の第2編の第1章で、大きく変わったといった場合に、もし何か具体的にこういうところを特に変えましたというようなことがあれば、ご説明いただけるとありがたいんですけど。

(政策企画課長)

前回の計画では、この項目につきまして11項目に幅広く整理をしていたところでございますが、今回は特にピンチをチャンスにというところもございまして、千葉県として進めていくべき基本的姿勢としてやっていくべきところをポイントを絞って、整理をさせていただいたというところが、今回変えたところでございます。その中でやはり大事な災害に対する体制や、人口減少への対応、成田空港の拡張事業等に伴う波及効果など、特にポイントを絞って今回は6つのチャレンジとして整理をさせていただいたところでございます。

(座 長)

どうもありがとうございました。

それでは、本日会議場にお集まりいただいている方から順番に、御質問・御意見をお伺いして参ります。私も含めて、委員 12 名というところがございますので、時間の関係上もございますので、お 1 人につき 5 分程度でお願いいたします。

入江委員、お願いいたします。

(入江委員)

県医師会の入江でございます。感想を申し上げます。

今回の計画、あらかじめ資料をいただいたものですから、自分に関係あるところを予習して参りました。

4 年前の計画の基本はそのままおりますけれども、この 4 年間かなり高齢化が進んでおりますので、その辺を踏まえて、今後、医療だけではなくて特に介護が必要になる。その辺を踏まえた上の計画で大変よくできていると思います。

これを見ていますと、4 年後、さらに 10 年後の千葉県がどのくらいよくなっているか、素晴らしくなっていそうな予感がして大変楽しみです。我々医師会もこの計画に沿って、なるべく事業を進めていきたいとそうように考えています。

(座 長)

どうもありがとうございました。

続きまして、垣内委員、お願いいたします。

(垣内委員)

ありがとうございます。

私は専門が文化政策ということでございまして、特に文化の観点から、この計画案・素案を拝見させていただきました。

第 1 期の県政の振り返りをきちんとして、非常にしっかりした枠組みの中で、様々な施策を展開していこうという、この基本的な方向性、そしてまた前回よりもかなり焦点を絞ってきたというところもわかりやすくなったかなと思っております。

すでに素案の段階で綺麗に整理されていますが、私の観点から 3 点ほどコメントをさせていただきたいと思います。そのコメントの前に、まず独自の自然文化を生かした魅力の発信、そして人の流れを創出するというようなことをきちんとの基本構想の中で、チャレンジとして取り上げていること、また実施計画の中にも魅力ある千葉の創造ということで、取り上げていただいたことを大変嬉しく思っております。非常に豊かな千葉の文化、これを踏まえた形で整理していただいたことを大変嬉しく思っております。

1 点目ですが、この千葉が目指す姿もそうですし、それぞれの基本計画の取組もそうですが、6 つの分野に分かれていて、それぞれ、きちんとした重要なかたまりごとに整理されていると思いますが、やや独立していて、それぞれ相互の関連性というものがもう少しあった方がよいかなと感じております。

今日の行政課題というのは非常に複雑化しておりまして、分野を横断したような形での対応を

求められることが多いように感じております。例えば私が専門としております文化に関しても、概念が近年非常に広がっておりまして、例えば食文化、千葉が誇る発酵文化、お酒、お醤油やみりんなど、そのようなものも登録文化財として国が登録をしていくというような動きになっております。また、生活文化であつたり、お祭りなどに加えて、文化的景観、これは、都市だけでなく農村、漁村、海洋、海も含めてこの千葉県が非常に豊かに持っている魅力、こういったものを文化的景観という形で守るというようなことも、近年非常に強まっております。そういった観点から考えますと、例えば教育や共生、自然のところで文化との関連というのは非常に強いわけですが、それだけでなくまちづくりやインフラ整備、都市計画、開発といったところとも非常に強く連動してくるところがございます。

一番遠いように見える危機管理についても、近年では大きな災害の後、文化が地域コミュニティのレジリエンスを高めるといったようなことも実感されております。古くは阪神淡路大震災の後、人々の心を癒すというのは、音楽であり美術であり、それによって劇場やミュージアムができるといったようなこともございますし、近年の東日本大震災、そして昨今の能登の震災の後も、地域に被災された方が戻ってくるときには、お祭りやそのような行事があつたり、そういうものを中核として、コミュニティが再生に向かうというようなこともございますので、計画に書き込むかどうかは別として、実施するにあたってはそれぞれの分野の担当同士が連携をして協働していただきたいと強く願うところです。これは第2章の行政経営の基本的視点に記載されている「機能的で弾力性のある組織運用」、ここに含まれるのかもしれませんが、日頃から様々な形で情報共有をしていただくということも必要になるかと思っておりますので、実施にあたってはぜひご配慮いただきたいと思ひます。

次に文化に関して、素案の181ページのところ、こちらにも非常にきちんと整理されているのでよりわかりやすくなっているのですが、取組の基本方向のところで、「障害の有無や年齢等にかかわらず誰もが」というくだり、これは非常に重要なポイントだと思います。その前の章に共生社会の実現ということも書いてありますので、例えば「国籍にかかわらず」というような文言も明示してもいいのかなと思います。「等」の中に入っているのかもしれませんが、せっかく共生ということを出しているのであれば、その社会的包摂にも大きな役割を果たせるかと思うので、このあたりの書きぶりを少しお考えいただけるとありがたいと思います。また他の自治体ですと、LGBTQなど、多様性についてもかなり言及しているところもございます。その辺りは他との平仄もありますでしょうから事務局にお任せしたいと思いますが、「誰もが」というところを少し広げて明示していただくということもいいのかなと思ひました。

最後に182ページ「多様な伝統文化の保存・継承・活用」、これもとても重要なところですが、継承と活用、それから情報の発信はしっかり書かれていますが、保存についてはあまり書かれていないように思われます。文化的な価値というのは所与のものではなくて、必ず劣化していきますので、何らかの形で保護し、維持し、支えていかなければならない、その保存の部分はとても重要なことですので、この一番最初のところに少し具体的な施策を明示していただきますと幸いです。ありがとうございます。

(座 長)

どうもありがとうございました。

それでは続きまして、坂本委員、お願いいたします。

(坂本委員)

坂本です。私は漁業を中心にお話をしたいと思います。

大変よく書かれていて、この漁業・水産業に関してのことは、網羅的に随分深掘りされていると思っております。

その中でいくつか話をしたいと思いますが、この４年間で大変顕在化してきた問題として、海洋環境の激変というところが１つあります。それと同時に、人手不足、後継者の問題というものが、また大きく顕在化してきているということがあります。

まず海洋環境の激変ですが、これに関しては、千葉県も水産総合研究センターなどが、色々資源管理であるとか、また魚の動向などを研究されているわけですが、こちらの方をより拡充していただくということが必要だと思っております。

また、同時に海洋環境を変えるということは、なかなか難しいわけなので、その中で何ができるのかということになると、新たな漁港であるとか魚種であるとか、新しい海洋環境に対応したような漁業というものを進めていく、そのために漁業者自らが、例えば協業化であるとか、会社化であるとか、その取組を新しくしていったって、自己改革をやることによって、この状況乗り越えていくということが必要だと思います。それに対しての支援というようなものも必要と考えています。

一方で、千葉県の漁業というのは、首都圏にあるという大変優れた立地、他県でできないような立地がありますので、海業ということがしっかり書かれておりますが、他の業種とコラボレーションをした、そのような漁業を核として、また漁港を核としたそれぞれの千葉県においても、まさにその田舎の方にある、そういう漁港であるとか漁村であるとかというのを活性化させるというようなことが必要だと。こういうことは、千葉県であればよりできるのではないかなと考えています。

その際に、他業種との連携というのは絶対必要ですが、例えば私のところ、千葉県銚子ですが、銚子にはまさに発酵文化の醤油とそれから魚食文化というものがあって、両方合わせて和食ができ上がっているわけですが、このようなものの強みというのが、今まであまり上手くできていなかったのかなと。自分のところに日本で最大級のお醤油屋さんがありながら、中々そういう方々と一緒になって何か進めていくというようなことができなかったのではないかと思いますので、そういうものを行政の方から、しっかり後押しをしてもらえればと考えています。

もう１つは後継者の問題ですが、これも色々ところで言われているので、特に千葉県の場合、３つ高校の海洋科がありますが、残念ながら中々その定員にも達しないような状態になっていると。卒業しても漁業・水産業に従事するという方が少ないという、そのような問題があると思います。我々としては、ここのところを何とか水産系高校を出た方に、水産業にしっかり従事してもらえるような、カリキュラムだけではなくて、学校のあり方そのものも変えていってもらってもいいのかなと思っています。これは次の４年間の間に是非とも取り組んで方向性を出していってもらえればと考えています。

同時にこの後の４年間の間に、２つトピックがあると思いますが、漁業の関係では１つは洋上風力発電。これが今、少し色々問題にはなっていますが、2029年には稼働を始めるとしています。2029年ですから、今から４年後なので、この計画の間にその稼働が始まるということで、漁業地域との共生というもの、これはカーボンニュートラルでもありますから、そういった意味で、

さらに外房では他にも計画がありますから、これを進めていってもらいたいということが1つ。

それからもう1つは、令和9年に天皇陛下をお迎えする海づくり大会が千葉県で開かれるわけで、こういう大きなイベントを通して、魚食文化や千葉県の海の豊かさ、魚の豊富さというようなものを千葉県がPRしていってもらう、成田空港を利用してPRしていってもらうということが必要と思っています。

以上、色々意見を述べましたが、いくつか汲み取っていただいて、文章の中に入れ込んでいってもらえればと思っています。以上です。

(座 長)

どうもありがとうございました。

続きまして、谷藤委員、お願いいたします。

(谷藤委員)

谷藤と申します。専門はスポーツ経営学で、スポーツ振興について環境整備、そのようなことを研究しております。スポーツ関係者として、今回の懇談会に呼んでいただいて、非常に嬉しく思っています。

お話を伺って、素案を読んで感じたことを3つほどお話ししたいと思っていますが、1つ目はスポーツ振興について、2つ目にスポーツ振興の意義について、それから全体の構成についてお話ししたいと思います。

スポーツ振興についてということで、基本目標Ⅵのところの最後に出ていて、今回「スポーツによる地域づくり」を新設したというお話もありましたが、印象としては、千葉県の魅力があって、それをやっていくとスポーツも振興されるという、そのような順番かという気がしますが、スポーツの振興というのは、その先にあるというよりは日常にあることなので、日常的にスポーツの振興をすることによって、その先に千葉の魅力というのが発信できるのではないかと考えておりまして、ここの構成の中身に関しては素晴らしいと思いますが、そこも少し考えてもよいかと感じました。

それから、スポーツを振興すること自体はとても重要だと思いますが、スポーツを振興することによって人々の繋がりができたり、コミュニティの活性化ができたり、そのような個人の便益にとどまらないということで、まちづくりなどにも大きく関わるので、基本目標ⅠからⅤのところにも、たくさんスポーツが関わる場所があると感じております。

先ほど垣内委員さんから、相互の関連性というお話がありましたが、文化もスポーツもまさに同じで、それぞれの内容のところたくさん関わる場所があると感じております。例えば、基本目標Ⅱのところの中に、「観光立県」がありますが、観光というところでは、千葉の房総に行っ海でのアクティビティをする、成田空港に着いて自転車で周遊する、色々なアクティビティと合わせるなど、スポーツツーリズムというような表現も入ってくると、色々な可能性が出てくるかと感じます。

また、まちづくりということで、地域に愛着が持てるように色々な工夫が書かれていますが、プラス人が集まれるような環境づくりで、人が集まるというところの中心には、スポーツというようなことはとても大事かと。ここでいうスポーツというのは、競技だけではなくて、まさにスポーツの大元である遊びや、気晴らし、そのようなイメージのスポーツというのが、人々を繋ぎ、

集められるというところで、まちづくりにも大きく関わるかと思います。

また、その後の超高齢化社会の健康づくりや、障害者福祉、若者の仲間づくり、国際交流など、どの面に関してもスポーツというのは非常に貢献できると思いますので、個人的には文面に少しでも入れることによって、こういうことは関係するんだということの理解が進むのかなと感じておりますので、ぜひ取組の例など、そういうところでもどんどん入れていただきたいという要望を持ちながら読ませていただきました。

3つ目として、全体構成についてですが、先ほどご説明もいただいて、第1章のところで6つのチャレンジにまとめたということで、ピンチをチャンスに変えるというところで、何か印象としては、ピンチをととても綺麗に整理していただいたという感じで、チャレンジのところがもう少しチャレンジがないのかなという印象。専門外ではありますが、第1章、第2章とかに、もう少し10年後こうありたいということであれば、少し表現が弱いみたいなのところがありましたので、例えば「～社会づくりが進んでいる状態」を、10年後であれば「～社会ができています」など、もっと言い切ってもよいのかなと、チャレンジということであれば、もう少し強気であるとよいかなと思いました。

最初の知事のご挨拶では20年後、30年後に明るい世の中にしていくということでしたので、なおさらそこはバシッと攻めで、描いていけたらいいのかなと思いました。ここは率直な感想です。

最後に、スポーツ振興に戻りたいと思いますが、前回の計画のときには「する」「みる」「ささえる」というところがバーンと出ていましたが、今回は割と「する」というところに絞られているのかなという印象を受けました。文化同様に、スポーツは「する」以外にも「触れる」ということの中で、目標を立てたりしていくことで、最初に言いましたまちづくりや、人との繋がりということにいくのかなと感じておりますので、次回、指標が出るという話でしたが、「する」の割合というよりは「触れる」「する」「みる」「ささえる」様々な関わり方を踏まえて、そうであれば100%というくらいの指標になるといいなということを願いながら読ませていただきました。以上になります。

(座 長)

どうもありがとうございました。

続きまして、永富委員、お願いいたします。

(永富委員)

連合千葉の永富でございます。

総じて、よく作られた素案だと思っているところでございますが、雇用という面で意見といたしますか、期待したいことを少し触れておきたいと思います。

計画の中では、千葉特有ともいえる成田空港を中心とした発展、それと積極的な企業誘致について記載をされております。千葉県は東京近郊の県ですから、いかに千葉が選ばれるかという点も重要と思っております。

先ほど道路のお話もありました。利便性、交通網の整備、くわえて東京と比較すれば家賃も安いことも優位性があると思います。千葉の魅力、さらには人が集まりやすい、こういったものがどんどん活かしていければと思っております。本計画では示されておりますので、これが具体化

することを期待するところでございます。

働く関係では、企業誘致をすることによって働く場所が増える。これは非常によいことですが、一方で人手不足の懸念もございます。D Xや高度化などについても計画に記載されており、人手不足の解消に向けた生産性向上施策として有用であると思います。特に中小企業に向けてD Xや高度化の支援が必要になってくると思っております。

このことは知事もよくおっしゃられており、先駆的に取り組んでいると思っておりますので、今後さらに具体化と広がり期待しています。

総合計画では、これまでも千葉を6つのゾーンに分けて、それぞれの地域特性の強みを活かしていくことが示されており、地域実態毎の強みを伸ばしていくことは良いことだと思います。

一方で、東京に近い都市型地域、県東・県南の広域型地域、特に広域型地域では過疎化・高齢化傾向が顕著に表れています。理想を言えば、広域型地域への企業誘致など、雇用や住環境が整っていけば良いと思いますが、千葉県はさまざまな産業のポテンシャルがありますので、それぞれの地域特性や、働く者・生活者の声も伺いながら、この計画の策定に努めて参りたいと思いますので、今後ともよろしく願いいたします。

(座 長)

どうもありがとうございました。

続きまして、花島委員、お願いいたします。

(花島委員)

県社協の花島と申します。

ざっと読ませていただいて、ほぼ網羅的に大変よくできていると思います。異論は全くございません。感想的なところを述べたいと思います。

まず、社協として関わっているところで、防災についてでございますが、素案の51ページ、「防災連携体制の充実強化」で、災害福祉支援チーム(DWAT)の記述がございます。去年の能登半島地震では死者581人のうち災害関連死が353人ということで、避難所等での災害関連死が61%を占めるというような状況でございました。DWATの仕事ですが、被災者等に対し福祉的な支援が円滑に実施できるよう、「この災害関連死のリスクの上昇を防止するために」のようなことを触れていただいた方がよいかと思いました。

それから今国会で、災害救助法等の改正が審議をされております。救助の種類に、福祉サービスの提供ということが新設される予定です。来月には、大分明らかになってくると思いますので、総合計画ができる前に間に合えば、改正を踏まえたメンテナンスをしていただけたらと思います。避難所支援だけでなく、車中泊や在宅の避難者への支援にも拡大するなどが予定されています。福祉サービスの提供というところで、国会での審議状況を見ておいていただきたいと思います。

それから52ページ、上から4行目に西部防災センターがリニューアルされるということでございます。「地域における防災活動の中核となる人材の育成等」ということになっていますが、私どもとすれば、災害ボランティア活動の参加の動機付けということも、お願いしたいと思ひますし、可能であれば盛り込んでいただければありがたいと思ひます。

それから123ページ、「高齢者福祉と障害者福祉の充実」のところでございますが、現状と課題の中で、「高齢の一人暮らし又は高齢夫婦のみの世帯が増加することが見込まれるということで、

孤独・孤立の問題ですが、これは昨年、「孤独・孤立対策推進法」ができて、これは高齢者だけではないのでこれを盛り込むのは中々難しいかもしれませんが、高齢者のところでも、孤独・孤立防止という観点を何か入れられないかと、そのような感想を持ちました。

次に 124 ページの真ん中あたり、「高齢者の健康寿命の延伸」のところでございますが、「バランスの良い食生活で運動の習慣化により、健康づくりや生活習慣病対策を推進し、高齢者の心身の機能の維持向上を促進します」とあります。最近言われているのは、家庭や地域社会で役割を持って生活することが健康寿命の延伸に繋がると、誰もが地域社会に参加する環境を整えていくことが必要だということでもありますので、そのようなところもこの健康寿命の延伸の中に入れ込めたらという感想を持ちました。

最後ですが、125 ページの上、「福祉・介護人材確保・定着対策の推進」について、今の高齢者施設の生の声は本当に人手不足でもう悲鳴が上がっています。これから益々ニーズが増えてきて、一方で人材の方は他の業種に行ったり、あるいは東京に行ったり、結局のところ、その人手不足が大変だということが非常に聞こえてきていますので、国に要望をしていかれるのはもちろんやっていただきたいですが、もし県でも有効な対策があれば、盛り込んでいただけたらありがたいと思いました。私からは以上でございます。

(座 長)

どうもありがとうございました。

それでは続きまして、平山委員、お願いいたします。

(平山委員)

町村会を代表してきております。

町村会 17 町村ございますが、共通しての課題は、やはり人口減少であったり、あるいは半島性ということで、千葉県北東部や南部でどうしても都会から遠い、交通の不便なところがございます。

そのような課題の中で、今回の素案を拝見いたしますと、特に首長として課題と感じていた半島性からの克服ということで、「防災県・千葉」の確立というところを打ち出していただき、インフラを始め治水等、そして災害が起きたときの連絡体制・連携体制等をきちんと明記していただいて大変心強いと思っております。

そして町村共通して、それぞれ立地は違いますが、首長さん方に中心の産業は何ですかとお聞きしますと多くの方が農業ですと答えます。

そのような観点からこう見ますと、農業につきましても、今後のあるべき方向性のところで、スマート農業や生産体制、大規模な基盤整備をして集約していく方向、あるいは魅力あるものを輸出していくという方向性が、きちんと明記されていて、大変素晴らしいと感じております。

そのような中で、2 点、もう少し踏み込んでいただけたらと思うことがございます。

1 点目は人口減少ですが、様々な観点から若者、あるいは教育への支援というところが書かれていますが、町村の首長さんたちが口を揃えて話しているのは、「18 歳で高校を卒業して就職して都会に行ったらそのまま帰ってこない、22 歳になって大学を卒業したらそのまま帰ってこない」ということで、どうしても若者の流出を止められないという状況がございます。

すぐに若者が地方に帰ってくるということの中々難しいことですが、若者の支援、そして子育て

て世代への支援というところで、都会・都市部にはない、田舎ならではのメリット、魅力を打ち出していただき、支援していただいて、その中で選択肢の1つとして、「Iターンしようか、Uターンしようか」という選択肢があるようなご支援があればと思っております。

そしてもう1点は町村会というよりも、多古町の置かれている状況ですが、知事が冒頭のご挨拶の中でも今、千葉県が置かれているその優位性ということで、成田空港と圏央道の令和8年度整備開通というところをお話いただきました。また、素案の中にも初めのページには千葉県の優位性が書かれていますが、空港の発展を考えたときに、空港圏9市町というゾーニングがございます。

空港周辺の地域ですが、成田市、多古町、芝山町、神崎町、香取市、富里市、栄町、横芝光町、山武市、この空港圏9市町で今、連携をして進めていることもございます。そのような中で、振興事務所ごとのゾーニングということで、地域の特性で色々な施策、手立てが示されています。一番わかりやすいのは資料の別紙1、例えば先ほど申し上げた成田市、富里市、栄町は印旛ゾーンにあり、多古町、神崎町、香取市は香取・東総ゾーンにございます。

また、芝山町、山武市、横芝光町は九十九里ゾーンということで、このゾーニングの中で少し分かれてしまっているということがございます。

今、成田空港会社と県の方で、NRT（ナリタ）エリアデザインセンターをつくっていただき、その中でもエアポートシティをつくるためのゾーニングということで進められております。

成田空港から千葉県経済のみならず日本経済を牽引し、世界をリードするエアポートシティをつくるというような考え方で進んでいる中で、少しこの振興事務所ごとのゾーニングと合致しないところがあるなと感じております。

そして、ゾーニングの説明の方を拝見いたしましても、例えば印旛ゾーンですと、説明の中に「人・モノ・財」の流れを取り込み、地域の活性化を図る、あるいは素案の文章を読みますと、国際的な産業拠点という文言も出てきます。

しかしながら、今、空港周辺で大きな企業立地、企業誘致を進めている多古町、そして芝山町、多古町は物流拠点、そして芝山町は空港宇宙というところで、エアポートシティの中ではゾーニングされております。そうしますと香取・東総ゾーンの中の文言にも、国際的な産業拠点というところ、あるいは芝山町が属する九十九里ゾーンの中にも、国際的な産業拠点という文言を入れていただければ、エアポートシティ構想、あるいはNRT（ナリタ）エリアデザインセンターが示すゾーニングとも合致してくると思っております。以上です。

（座 長）

ありがとうございました。

続きまして、前田伸委員、お願いいたします。

（前田伸委員）

県の観光物産協会長を仰せつかっております。

観光のより現場に近いところからの発言になりますので、その辺の方はご容赦をいただきたいと思っております。

基本構想の中で、成田空港各章の部分でも、観光客の広域周遊の促進というキーワードをいただいておりますし、施策項目Ⅱ-1-④の「観光立県の推進」において観光施策を盛り込んでいた

だいておりますが、観光は色々な分野に繋がって参りますので、そういう意味では非常に横断的・多角的な線の交わったところにあるような位置付けだと感じています。

その中で、千葉県の観光の強みと弱みは何だろうということ、千葉県は実はまだ日帰り観光地で、日帰り観光地を脱却しなければいけないと強く思います。東京圏の3000万人以上の非常に大きな存在人口に支えられて、千葉県の観光は成り立っていますが、今もアクアラインは土日中心に車が動かないというような大変な大混雑をしております。これをぜひ千葉県で1泊、2泊、宿泊をしていただいて、より深い観光につなげていくということが1つのポイントになるだろうと現場からは思っているところです。

要するに1泊していただければ、ダブルの2回カウントです、2泊していただければ3回ですが、消費はさらにその二乗がかかるように思います。例えば宿泊していただくと、夜お食事をとられます。そこではまさに千葉の食と連携をしています。地産地消の野菜であったり、あるいは今、観光サイドで話題になっているのが、千葉で生マグロが獲れると、これが美味しいんだというような千葉ブランドの新たな農林漁業のもの、それから農産品も隠れた産品が千葉県にいっぱいありまして各地域ブランドがありますが、千葉県地域ブランドを磨きながらも、例えば発酵千葉ということで強調していただいています。

もう1つ、私は千葉オーガニックというのがあるのではないかと、これからは有機を強めていくことによって、より身体にもよい、ひいては健康寿命の延伸というような医療や県民生活にも繋がる場所がある。千葉はそれぞれ地域の農産品でよいブランドがあるけれど、発酵やオーガニック千葉全体でよいものがあると、こういうものを観光や宿泊を通じて、広めていけるのではないかとそのようにも感じています。

その意味で、単なる日帰りの入り込み人数に頼らない、根の深い、地産地消や千葉独特のものと連携する観光の推進が1つのキーになるように思います。

それから基本構想の中でも、成田空港からの道路ネットワークの充実強化などがありますが、今観光で言いますと、いわゆる観光バスのツーリズムというのが、乗務員さんの減少やそれに伴うチャーター料金の高騰ということで、観光バス・団体での旅行が非常に難しくなってきました。これからのキーはFITの個人旅行、インバウンドを含む個人で移動される回遊する観光、これがキーになると思います。その中で、千葉県内は残念ながら公共交通関係機関のインフラが半島的で切れ切れとなっています。そこで、成田空港や各鉄道駅から観光地をダイレクトで結んだり、周遊できるような観光バス、あるいはレンタカーやシェアカーの県内観光での活用、また将来、特に基本構想の10年のうちには自動運転というのが、これ千葉県だけではなくて世界の大きなテーマ、ゲームチェンジャーになると思われます。そこを見据えた自動運転車の活用の研究もしつかりとこの4年間で行っていかねばならないのではないのでしょうか。

以上、日帰り観光地からの脱却のため、ぜひ宿泊の重層的なカテゴリー、ビジネスからラグジュアリーからグランピングから世界的なブランドまでを揃えること、場合によっては規制緩和や誘致、さらには既存の中小事業者へ配慮したリノベーションや増設の後押し、そのようなこともこの基本構想から広がっていく、そのような構想であれば、非常に観光面の促進になるのではないかと観光現場から申し上げさせていただきます。

(座 長)

どうもありがとうございました。

それでは、山本委員、お願いいたします。

(山本委員)

山本でございます。

拝見させていただきまして、特に防犯関係のところ、「くらしの安全・安心の確保」というところを中心に読ませていただきました。犯罪の手口・手法がどんどん変わりますので、4年前にはなかったような、特にトクリュウ、匿名流動型、それから闇バイトというものが今、非常に問題になっております。千葉県内でも事案が発生しておりますし、こういった基本計画を立てたタイミングとその後の変化の動向に追いつくというのは、これは中々至難のわざで、これをつくられた方々に敬意を表します。

この中に前回もあったかと思いますが、地域防犯力という概念が出てきます。とても素敵な概念だと思います。

防犯に関しましては、私はこういう例えを使います。警察というのは救急医療や外科で絶対に必要です。でも地域防犯組織、自主防犯パトロールなどは言ってみれば市販薬かなと。すべてを警察に頼るというのはよろしくないというか、不健全ですので、まず自分たちの地域・まちは自分たちでできることはやろうというのは当然のことだと思います。しかし、市販薬を使う以前のレベルがあって、例えばさきほどもそのような話が出てきましたが、高齢者のところで食生活や適度な運動、このレベルというのは絶対にあると思います。地域コミュニティがどうなるかです。例えば、地域に顔見知りがいるかどうか、立ち話をする相手がいるかどうか、人と挨拶をするかどうか、近所の子どもを知っているかどうかです。つまり、地域防犯力という概念は本当はそれを組み込むべきで考えるべきだと思います。ただ、政策目標として立てるのは難しい。

犯罪社会学、あるいは犯罪学ですと、集合的効力感という概念があります。シカゴの犯罪を研究した Sampson と Laub というシカゴ大学の社会学者により集合的効力感という概念が提示されて、今、私がしたような話です。もう1点、エピソード的に紹介しますと、自主防犯パトロールを一生懸命やれば、一生懸命盛んな地域は住民の安心感が増すか、これは科学警察研究所などが研究していますが、どうも答えが出なくて何かデータが不安定です。一応答え・解が出ました。地域の結合、地域の住民の繋がりが強い地域だと、住民のパトロールは安心感をもたらします。地域の繋がりが弱い地域でパトロールをかけると、むしろ不安感が増します。つまり、同じ施策であっても、体質によって効果が違うということです。マルチレベルの回帰分析をやった結果です。ただし、人々の繋がりに政策介入をするというのは難しいと思います。でも、定点観測はすべきだと思います。

千葉県内における地域社会の、あるいは地域コミュニティの人々の繋がりが弱くなった、良くなったという話はよくありますが、どの程度弱くなったのか、どこで弱くなっているのか、そうではないところもあるのではないかとこのことを把握する努力は必要だと思います。

例えば、県政に関する世論調査をなされていますので、毎回、おそらくサンプリングを変えていると思いますが、パネル調査にせずと継続的に追いかけていくような調査をすれば、変化は把握できますので、そのような工夫があってもよいと思います。

私が言いました話は、要するに犯罪や防犯の話というのは、犯罪だけで考えるべきではなく、地域の繋がりの話というのは防災であったり、認知症の見守りであったり、自殺対策であったり、どんな分野にも等しく繋がる話だと思います。ただ、計画に書くかということ、少し書き方が難し

いと思いますので、そのような視点、つまり、防犯を防犯だけでは考えないという目線は必要かと思いました。

もう1点、実施計画の政策評価のところ、EBPMをやりますという宣言がなされて素晴らしいと思います。素晴らしいと思いますが、中々大変だと思います。EBPM、エビデンスベースというのは、色々な手法があるかと思いますが、特に防犯ですとRCT、ランダム化比較対照は、ほぼそのようなものは無理だろうと思いますので、でもせつかく県として県政に関する調査をやっていますので、これをもっと深掘りすることによって、多変量解析をかけることによって、見えてくるものがあると思いますので、そういった工夫はできるかと思います。

さらに、テーマによっては県の政策全部についてEBPMをやらなくても、実験的な介入ができることはたくさんあると思います。害がない範囲で小規模な実験的なことをやるべきだと思います。

具体例を1つだけ申し上げます。例えば千葉県内で、子どもや女性が犯罪の被害に遭っているのはどこなのかというのは、千葉県警がホームページに出していますので、リストをみれば一目瞭然です。千葉市中央区新千葉1丁目、圧倒的に千葉駅での盗撮です。盗撮の件数、これはホームページに出っていますが、ものすごい数です。これは場所がわかっていますので、効果があるかないかは検証してみないとわかりませんが、害がない範囲で、例えば鏡を貼るなどやっていると思います。実はやっているのは気付いています、気付いています、変な音楽を鳴らしたり、プロジェクションで画像つまり、エレベーターを使う人の目がスマホから離ればいいわけですから、加害者に介入するのではなく被害者に介入するのではなくて、通行人がスマホから目を離して、周りを見てくれればよい。そのために、どういった介入が効果的かというと、やれることはやりたいと私も思っております。以上でございます。

(座長)

どうもありがとうございました。

続きましてZoomでご出席いただいている方から、お聞きしたいと思います。矢萩委員、お願いいたします。

(矢萩委員)

政策企画課におかれましては、素案の作成を大変ありがとうございました。

私は保育・子育て支援実践を専門として、幼稚園教諭、そして保育士の養成を行っております。主に基本目標Ⅳになりますが、よろしくお願いいたします。

まず、人口減少社会についてですが、日本の出生数の減少が予想をはるかに上回る勢いで進んでおり、令和6年度、厚労省の人口動態統計では72万988人ということで連続して9年減少、過去最少ということになっていることが、素案の中でも説明されています。そして素案の6ページにございますが、千葉県は、国全体よりはやや緩やかな形で、社会増を自然減が上回る人口減少時代というのが令和3年(2021年)から始まったということが説明されています。そして令和5年の出生数3万5658人ということも131ページに記載されております。

そのような中、国では異次元の少子化対策ということを旗印に、子ども・若者などを取り巻く行政分野を一元的・横断的に担当・推進するために、2023年4月に皆様ご存じのとおり、こども家庭庁が発足いたしました。そして、その参考資料にあります、大変気になるデータとして、

「若い世代が結婚・子育ての将来展望を描けない」という調査結果を本県も重く受け止めた政策となっているかと思います。先ほど委員のご発言にもありましたが、前回の会議でも課題として挙げられていたのが、若者の都会への流出ということでした。

1点気になりますのは、この項目の中で、核家族化や地域の人間関係の希薄化、そして子育て中の養育者の孤立等、現在の社会状況を背景に、子育て家庭の支援や誕生前から切れ目なく社会全体で子育てを支えるということを謳いながら、一方で、「家庭の教育力の低下」、「家庭教育力の向上」といった文言が出て来ている点でございます。この言葉は、前回の計画にも実はあったわけですが、何か家庭に現在の状況の要因や解決を求めようとする論調に聞こえなくもない、「社会」と「家庭」が少し混在している点を、もう少し統一した論調にしてはどうかというところは感じた点でございます。

そして、こども・若者の人権の尊重や、権利擁護など、また彼ら自身が主体となって、他者と協働しながら自らの人生や地域社会の幸福な未来というものを切り開いていける力や、豊かな人間性を育むという方向を、官民あるいは各行政分野が一体となって推進していくべきということは、先ほどから数名の委員の先生方もおっしゃっていた御意見と同様に、私もその意見に賛同するものでございます。「一体となって」というのを具体的にどうするかというのが問われている部分かと思います。

基本目標Ⅳの第4項の施策項目に、子育て環境の改善・整備、若者のライフデザイン、健全育成支援、保育・教育内容や人材育成といった視点が網羅的に押さえられているわけですが、虐待や貧困、障害、社会的養護、不登校、ひきこもり等、多様な課題が益々増大する中で、県の現状がどうなっているのか、特に、十分なケアや支援が受けられる子どもとそうでない子ども、この格差が大きな課題になっているのではないかと考えていますが、その辺をしっかりと押さえつつ進めていただきたいところです。

事実、OECDの調査結果などにおきまして、これらの格差の根源というものが、乳幼児期の教育・保育、その乳幼児期にいかに質の高い保育や幼児教育を受けられたかということによると明らかにされ、各国がそこに経済的投資を行っていく根拠を見い出しているということが言われております。

国のこども政策も進んでいるところですが、県として具体的な施策の実施主体である市町村に対して、その現状の把握、そして強力な支援をぜひお願いしたいところでございます。この件については、第2章「行政経営の基本的視点」において、市町村との連携強化や、県民や民間等との協働・共創というところで、課題をどのように具体的に共有していくか、その方策であるとか、民間企業や大学などの高等教育機関とどう連携するのかといったことについて、もう少し具体的に県民が理解してイメージしやすいような書きぶり、計画の実施をどのようにしていったらよいのかという課題があるかと思います。

身近な例として、色々な園を回らせていただいております、例えば令和8年度から本格実施の「こども誰でも通園制度」であったり、それからもう数年前から事業化されている医療的ケア児の保育であるとか、各園は市町村の要請に対してそれなりに実施していこうと努力はしています。しかし、実際に進めていこうとすると、実施主体である市町村にまだ体制が整っていなかったり、知見が不足していたりという現状があって、現場が混乱してしまっている、困難を抱えているという声をよく耳にするのが現状でございます。色々な現場があると思いますが、県が行おうとしているこの計画を浸透させていくためにも、この会議でさらに議論が行われたらよいので

はないかと感じている次第です。

先ほどの格差ということと通じますが、県づくりの基盤となる地域によって、ゾーンによって大きな特徴の違いがある本県の実情をどう乗り越えていくのか、多様性や社会的包摂という強みにどう変えていくかということを目指していくとよいのではないかと感じているところでございます。以上です。

(座 長)

どうもありがとうございました。

次に、渡辺委員、お願いいたします。

(渡辺委員)

渡辺です。よろしくお願いします。

私は武蔵野大学の法学部政治学科で、行政学を専門として教員をしております。その中でも公務分野の人的資源管理、また大学卒業後長く文部科学省で働いていたということもありまして、教育政策・教育行財政について専門にしております。

今回、総合計画の案を拝見して、まず全体としまして、総合的に「千葉県民を守り、支え、そして飛躍する」という観点から様々な取組をされようとしていることがよく理解できました。

基本目標Ⅳの「こども・若者の可能性」というところを中心に拝見いたしまして、少し気になった点についてコメントさせていただきます。

文章を変えてほしいというところまでお願いするのか、あるいは関連する指標を設定してほしい、あるいは政策の実施の際に配慮してほしいということなのか、少し程度が違う意見を申し上げるということは予めお断りしておきたいと思います。

まず1つ目、基本目標Ⅳの「安心して子育てできる環境づくり」の中で書いていただいている「性別役割分担意識の解消が重要」ということに関連して、137 ページですが、これは非常に重要だと考えております。日本ですと女性の労働力率が上がるとともに少子化が進行しているので、女性が働いていると子どもが少なくなるとわれがちですが、最近の経済学の研究では、国際比較的に見ますと女性の労働力率が高いところで出生率が高いという傾向が見られておりまして、そういったところでは性別役割分担意識が薄いということがわかっているということがございます。

そのような意味で、性別役割分担意識の解消というのは非常に重要なテーマであると思っておりますので、そういったこととの関連で、例えば県職員の「男性の育休取得率を上げる」というようなことも盛り込んでいただければ、率先垂範になると感じた次第です。

関連でこれも基本目標Ⅳの中、138 ページに「若者の仲間づくりの促進やライフイベントに応じた支援」ということで、若者の出会いの場を設けていこうということ、これも非常に重要だとは思いますが、先日報道もなされていたように、こども家庭庁の作業部会が、行政が行う若者の出会いや結婚の支援策というものが中々その認知度が高くなくて、20 歳代の利用率が少ないというような指摘をしています。なのでやめた方がよいということではなくて、それでも効果を上げているところはどのようにやっているのかということを経験検証していくそうなので、そういった成功例に着目する形で、工夫をして実施していくことが必要ではないかと考えた次第です。認知度を高める、あるいは利用者を増やすというところには、やや工夫が必要ではないかということ

を申し上げたいと思います。

3つ目は外国にルーツを持つお子さんの増加が、今後、教育分野では非常に課題になってくる、対応を迫られてくると考えております。その中で、141 ページなどで「外国人児童生徒等への日本語指導体制の強化」ということを書いていただいているのは非常に重要なことです。この文章だけでは見えてきませんが、子どもに対する支援はもちろん重要ですが、その親御さんたちの方が日本語力が高くないなど、その親御さんと連携をとらなければいけない学校の教員の負担というのが、おそらく非常に増えてくることが予想されます。そういったことに I C T の力を借りるなど、色々な方法はあるかと思いますが、親御さんと学校が連携協力するために教職員にかかる労力への支援ということも、ぜひ今後の施策に組み入れていただければと思います。

最後に基本目標Ⅲ、120 ページから 122 ページのところ、自殺予防という観点の内容を書いていただいています、その中で、若年層や女性の死亡率が増加しているという現状認識をお示しいただいております。

この目標Ⅲ自体は医療・福祉の分野だと思いますが、この若年層や女性に対する支援ということが、主な取組Ⅲ-1-②-5 のところでは見えてきていません。総合的にということなので、含まれているということではあるとは思いますが、若者支援というような意味合いでも、そのような若者の自殺予防、先ほどお話のあった孤立・孤独対策ということにも関わってくるかもしれません、そういったことも重視していただければと感じました。私からは以上です。

(座 長)

どうもありがとうございました。

皆さんから大変貴重な意見をいただいたと思います。

特段まとめることは不可能ですが、私なりに受けた印象を申し上げますと、色々な分野でお話されまして、それぞれ違いはありますが、まず第 1 に多くの方がこの総合計画の素案はよくできているのではないかという意見だったと思います。

2 つ目に、よくできているという中で、やはりここ数年で、相当環境が色々な意味で変化したという意見が多かったと思います。高齢化の問題や後継者不足、あるいは海洋環境が大きく変化したというような御意見もありましたし、防犯でも手口が相当変化したというお話もありました。4 年前に開催した前回の懇談会は、コロナ禍の最中だったということで、変化が見えなかった部分もありますが、やはりここ数年で相当変化し、従って十分な対応を取る必要があるということだと思います。

3 つ目、受けた印象として多くの方が「連携」という言葉が使われていたように思います。色々な分野の相互関連性が高まっているので、県庁の中でもそれぞれの部が独立してやるのではなくて、しっかり連携する必要があるという話がありましたし、市町村がしっかり連携する必要、あるいはその地域の中での繋がりが重要であるという話もありました。

その上で私の意見をごく簡単に申し上げたいと思いますが、私自身も過去 3 年間の情勢変化を踏まえてよく考えられている計画案ではないかと思いました。

加えて 3 つ申し上げますと、1 つは前回の懇談会で、P D C A がしっかりしなくてはいけないという意見が多かったと記憶しています。すでに過去 3 年から 4 年の評価を行った上で、色々検討されていると思いますが、最終案を固める中では、昨年度の分析をしっかりやった上で、場合によって次回の懇談会でご説明があるかもしれませんが、そのあたりをぜひ意識していただければ

ばと思います。

2 つ目に、私はちばぎん総合研究所というところですが、千葉県経済同友会でも副代表幹事をやっております、2 月に「千葉県の 2050 年の将来像」をまとめまして、熊谷知事にもお渡ししたところであります。そこでは「アイディアの花が咲きほこり、人・企業を惹きつける千葉へ」が目指すべきイメージとなっております。今日の御意見の中にも、千葉がいかに選ばれるかが重要という御意見もありました。色々な意見が出た中で、当然イノベーションといった前向きの動きが広がる必要があるということですが、同時に影の部分、今日も後継者不足等も含めて色々影の部分の意見が出たと思います。同友会のレポートを纏める際には、空き家や耕作放棄地など、いわゆるその影の部分にしっかり対応する必要があるとあって、課題解決の先進モデル県となることも大事という意見が多かったと思います。当然、県の方ではそういう御認識だと思いますが、改めて申し上げておきたいと思います。

それに関連しまして、アンケートをやりましたが、その中で同友会に属する企業では 75% が将来、2050 年が明るいと言っておりますが、一方で県民へのアンケートでは、明るいと言っている答えが 3 割弱であるということがありまして、ぜひこの総合計画によって、県民の皆様が少しでも先々明るいと思えるようなものになることを意識して、作っていただきたいと思います。

そして 3 つ目、これは言うまでもなく千葉県というのは CO2 排出量が最も多い県であります。前は施策横断的な視点でカーボンニュートラルが明示されていましたが、今回、第 3 編第 2 章は「行政経営の基本的視点」というように変えられているので、明示されていない面もあります。しかし、県としても脱炭素については全く後退していない、しっかりそこは実現していくんだということが維持されていると、誤解のないように、これはプレゼンテーションなのか書きぶりなのかわかりませんが工夫をしていただければと思います。

今まで色々個別論点も含め、御意見をいただきましたが、全体を通して委員から何か付け加えることがもしございましたらお願いいたします。よろしいでしょうか。

それでは本日、熊谷知事も最後までご参加いただいておりますので、知事からコメントがございましたらお願いいたします。

(熊谷知事)

大変貴重な御意見をそれぞれの委員からいただきましてありがとうございます。私も大変興味深く拝見をさせていただきましたし、かなりのメモをとらせていただきました。いただいた御意見について、総合計画の中でできる限り反映をしていきたいと思っておりますし、また総合計画だけでなく、行政運営をそれぞれしていく中で、意識をしっかり持っていきたいと思っております。

今後も計画策定に向けてまだまだ御意見を伺う機会があると思っておりますので、どうぞそれぞれの中から忌憚のない御意見を引き続き頂戴したいということをお願い申し上げまして、私からのお礼にかえさせていただきたいと思っております。ありがとうございます。

(座 長)

熊谷知事、ありがとうございました。

事務局では本日、委員の皆様方からいただいた御意見等を踏まえて、加筆修正の必要性を検討した上で、よりよい総合計画となるよう策定作業を進めていただきますようお願いしたいと思います。事務局から何かございますでしょうか。

(政策企画課長)

政策企画課長の明珍でございます。

最後になりましたが、本日御欠席された委員から、御意見の概要をいくつかいただいておりますので、ご紹介をさせていただきたいと思っております。

4項目いただいております、1つ目としまして、防災分野では、普段からのコミュニティ形成があつてこそ危機に臨むことができる。福祉や町内会、自治会、趣味のサークルでもよいので、そのようなコミュニティが増えると、自助・共助の強化に繋がり、半島でたとえ物資がすぐに届かなかつたり、道路が寸断されても、その中で持ちこたえることができる。こうしたコミュニティは普段から育てていくことが必要との御意見をいただいております。

2つ目としまして、成田空港の拡張事業等についてでございます。国際航空物流拠点の充実による産業集積を目指すという方針を適切に進めていくことが必要であると。特に成田空港を単なるモノの通過点とするのではなく、その特性を生かした産業拠点とすることが大事であると。また、空港利用者に千葉県で宿泊していただけるような工夫なども必要との御意見をいただいております。

3つ目としてまして、農業の分野でございますが、次世代を担う人材の確保・育成の取組は特に重要で、新規就農対策においては、新規就農に必要な農地や施設以外にも住居など多額の投資が必要となってくる中で、空き家の活用なども含めて、地域の受入体制の充実が必要との御意見をいただいております。

最後に、環境の分野でございますが、「廃棄物等の適正処理の推進」において、災害廃棄物に限って市町村との連携について記載があるが、市町村の実施する廃棄物処理全般についても最適化のための情報提供や連携などがあるとよい等の御意見をいただいております。以上でございます。

(座 長)

どうもありがとうございました。その他、特にございませんか。

(政策企画課長)

事務局の方は特にその他はございません。

(座 長)

ありがとうございました。

長時間にわたり、議事進行にご協力いただきありがとうございました。